

神の国に入るのに必要なこと (2)

ヨハネ福音書3:9-15

【新改訳2017】

- 3:9 ニコデモは答えた。「どうして、そのようなことがあり得るのでしょうか。」
- 3:10 イエスは答えられた。「あなたはイスラエルの教師なのに、そのことが分からないのですか。」
- 3:11 まことに、まことに、あなたに言います。わたしたちは知っていることを話し、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。
- 3:12 わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるのでしょうか。」
- 3:13 だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。
- 3:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。
- 3:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

【祈りながら考えよう】

- (1) 旧約聖書の中にも「新生」に関する教えはありますか。
- (2) 「モーセが荒野で蛇を上げたように」とはどんなことですか。
- (3) 14-15節から、「新生」すなわち「永遠のいのちを得る」条件を二つ説明して下さい。

【解 説】

〔1〕旧約聖書における新生の教え

主はニコデモに、「人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」「水すなわち御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできない」と語られた。

御霊の働きを説明するために、「水」や「風」という言葉を用いられた。ところが、この学識のあるパリサイ人は全く理解できなかったようであり、「どうして、そのようなことがあり得るのでしょうか」と質問している。

イスラエルの教師であるニコデモにとって、新生に関する教えは耳新しいものではなかったはずである。「きよい心、心の割礼、新しい心、石の心の代わりに肉の心」、これらの表現や思想を彼は旧約聖書の中で読んでいるはずであり、これらはみな新生を指している（詩篇51:10、エレミヤ4:4、エゼキエル18:31、36:26）。

「あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を与える。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。」（エゼキエル36:26）

それゆえ、彼の無知は叱責を受けても当然であった。あなたはイスラエルの教師なのだから、いま言ったことは当然理解していなければならぬはずだ、と主は答えられた。

〔2〕「地上のこと」と「天上のこと」

「まことに、まことに、あなたに言います。わたしたちは知っていることを話し、見たことを証しているのに、あなたがたはわたしたちの証しを受け入れません。わたしはあなたがたに地上のことを話しましたが、あなたがたは信じません。それなら、天上のことを話して、どうして信じるのでしょうか。」（11-12節）

ニコデモは、主が霊の新生について話されても、肉体の誕生のことしか考えられず、トンチンカンな答えをしている。「どうして、そのようなことがあり得るのでしょうか」と言っている。彼には全く分からない。

しかし、主はこの地上で現実に起こること、新生について話しておられる。それすら分からないのだとしたら、「天上のこと」、つまり「神の御心」について話しても、分かる道理がないと言われる。

生まれ変わった人は、地上で起こるこうした霊の新生という出来事も、神の御心もよく分かる。生まれ変わった人にとっては、この超自然的な霊的世界を見る目が与えられているからである。

〔3〕「天上のこと」とは何か

主が語られた「天上のこと」つまり神の御心とは、具体的には何か。それは、「神の救いの御心」であって、キリスト

の十字架である。

「だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

〔4〕荒野での出来事

主イエスは、ここでイスラエルの民が昔、経験した古事を引き合いに出して、ニコデモに教えておられる。イスラエルの民が、神の力強い御手によって出エジプトをし、約束の地カナンに向かって荒野の旅をしていた時のことである。

主は彼らが生きていくのに必要なパンや水を何回も奇蹟としてお与えになった。このようにして神の恵みによって彼らは荒野の旅を続けて行くことができたのである。ところが、この荒野の旅の終わり頃になって、またイスラエルの民は神とモーセに対してつぶやき始めた。

「なぜ、あなたがたはわれわれをエジプトから連れ上って、この荒野で死なせようとするのか。

パンもなく、水もない。われわれはこのみじめな食べ物に飽き飽きしている」（民数記21:5）

神が、これ以上忍耐されることは、彼らの不信仰による反逆を是認することになり、反抗心を助長することになると判断された。神は、罰として、彼らに毒蛇を送り、それに咬ませられたので、つぶやいた者たちはその毒蛇に咬まれ、咬まれるとやけどを負ったように痛み始め、その猛毒のために、どんどん死ぬといった有様になった。

これは、神に反逆する者たちに対する神の裁きであった。この苦しみの中からイスラエルの民は自分たちの罪を悔い、モーセにとりなしの祈りを乞いに来た。モーセが祈ると、神は、青銅である毒蛇と同じような形をした蛇を作り、それを旗ざおの上につけるようにと言われた。そして、「すべて咬まれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる」と言われた。モーセは主が仰せられた通りに青銅の蛇を作り、それを旗ざおの上につけた。

毒蛇はなおも猛威を振るっていた。どの天幕の中へもその毒蛇は入り込み、神に反逆した者たちに噛みついた。そしてその猛毒のために苦しみ、死につつある人々が一杯いた。その時である。1つの喜びの訪れがもたらされた。

「旗ざおの上につけられた青銅の蛇を仰ぎ見る者はだれでも死なないですむのだ」という知らせである。それを聞いた人々の中で、その反応は必ずしも同じではなかった。

ある人は考えた。「旗ざおの上につけられた青銅の蛇を見ることによって救われるんだと。とんでもない。そんな非科学的な迷信じみたことに惑わされるもんか。そんな知らせは、自分の理性が許さない。」そしてそのまま死んでいった。

また、ある老人はこう考えた。「自分の長い経験の中で、そんなことは未だかつて1度もない。そんなばかげたことで人が救われるなどといった知らせは、人を惑わすもの以外の何ものでもない。私はそんなものを信じない」こう言って、その老人も死んでいった。

しかし、苦しみあまり、わらにもすがるような思いで、天幕からはい出し、旗ざおの見える所まで来て、その上につけられていた青銅の蛇を見た人は救われた。

青銅は裁きの象徴であり、木の上かけられることは、呪われることを意味している。申命記21章23節に「木にかけられた者は神にのろわれた者だからである。」と記されてある。

竿は十字架の型であり、青銅は主イエスが十字架の上で裁かれて下さったことの型である。では、青銅の蛇は何か。それは、罪のない聖なる神の御子が、十字架の上で、呪われるべき罪そのものと見なされて下さったことの型である。

神は、十字架の上につけられた御子に、私たちのすべての罪を負わせ、ご自分の、その罪に対する呪い、怒り、裁きを残すところなく全て、受けさせられたのである。

〔5〕信じる者が永遠のいのちを持つため

救われるためには、努力して律法を守らなければならないと思っていたニコデモにとって、これは驚きのことばであった。これは実に、人は、全て罪のゆえに、霊的に死んでいるけれど、毒蛇に咬まれて死にかかった人が、竿の上の青銅の蛇を見ただけで生きたように、十字架につけられたキリストをただ信じるだけで救われる、という宣言であった。

ニコデモは、主イエスがメシアであられると知っただけでなく、信じるすべての者に永遠のいのちを得させるために十字架の上かけられてくださるお方であるということを知られた。

「それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」

十字架のキリストを信じる人は、だれであっても、救われ、「永遠のいのち」が与えられ、神の国に入れていただくことができる。どんなに力弱い仰ぎ見方でも、イスラエルの民はいやされたように、どんなに弱い信仰でも、もしそれが真実で誠実なものであるなら、私たちは「永遠のいのち」を得る。何と感謝なことであろう。



モーセが荒野で蛇を上げた